広報 ものづくり

2006. 8. 25
NO.001

広報「ものづくり」発行に当って

鈴鹿市ものづくり支援室
代表　大原　勝

本年四月にスタートした「鈴鹿市ものづくり動く支援室」も早四ケ月が経過しました。鈴鹿市内の企業の皆様から、予想以上の活用を頂き益々活況を帯びています。

キックオフを契機に、我々「動く支援室」の趣旨と体制に賛同して支援要請をして頂いた企業は四十社に達し、活発に活動しております。既に支援を完了した企業も含め、利用価値の高さにも評価が高まっております。

製造業の街、ものづくりの街鈴鹿として中小企業の底力が益々重要となる昨今、次世代を担う活力の高揚が不可欠であり、活性化の原点であります。

活動指針でもある三現主義、つまり「現場」「現物」「現実」をもって、加えて「シンプル」「スピード」「集中」で対応する動きに今迄に無い取り組みに驚きと賛辞を頂いております。しかしながらスタートして四ケ月、運営方法や、推進体制も充実しては来ましたが懸案項目も明確化してきております。この経緯を踏まえて、支援室の充実を計って行く課題も見えてきています。市内企業の接点の強化、情報の共有化、情報宣伝活動の強化、市内各機関との連携等、支援室の強化、充実も当面の課題と言えます。今回、「ものづくり動く支援室」の広報紙の発刊は今後の情報交換の一環として活用して行きますが皆様からのご利用もお待ちしております。

我々の活動について近隣各市はもとより全国区で知名度も上がり注目を集めていますがその期待に見合った成果・実績を実現させて、定着する活動に継げて行きたいと思います。各関係部署、各位との協調の下今後ともご協力をお願いいたします。

SA全体会議(7月18日)

「鈴鹿発・世界へ羽ばたく企業を！」

百五銀行
鈴鹿支社長　丸屋啓右

貴支援室には四月のキックオフ以降すでに三十社以上がサポートをうけておられるとのこと。支援メンバーの皆様や周囲のスタッフの皆様のご努力が少しずつ浸透している結果だと思っています。

やはり自動車関係の製造業をはじめとして工業・機械関係の企業がサポートを受けているとのことで、「車の街・鈴鹿」ならではの傾向だと思います。

三重県経済全体を見ても、鈴鹿以北が中心となって元気が出ており、全国平均に比べ第二次産業、特に製造業の占める割合が高くなっています。そして製造業の中でも輸送用機械が出荷額一位であり、鈴鹿市、三重県とも自動車関連の影響が大きく、その動向に左右される傾向にあることが伺えます。アドバイザーの皆様もその製造関係の鈴鹿ならではの出身企業の方が勢ぞろいされており頼もしい限りです。今後も貴支援室が、鈴鹿市の中小企業製造業の良きパートナー、あるいは良き相談相手となって、ひいては鈴鹿発の三重を代表する、または日本を代表する製造企業が生まれてくれれば、こんな喜ばしい事はないと思っています。私たち地元の金融機関としても、資金面のサポートや情報提供など一生懸命お手伝いをさせていただきます。貴支援室の地道でも、息の長い力強い活動を心から期待しております。

事務局より
アドバイザーの皆様へ

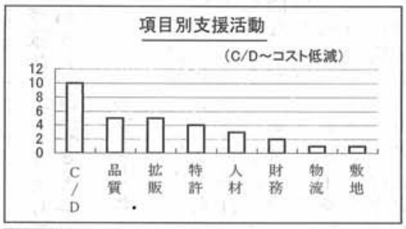
去る七月十八日に第一回SA全体会議が開催されました。（右写真）支援実績も目標を上回ってはいますが中にはまだ支援室の存在や活動内容が伝わっていない企業もあり鈴鹿市の第5次綜合計画の産業活性化戦略の重要施策である「鈴鹿市ものづくり動く支援室」と企業の連動を図って行きたいと考えます。八月度は鈴鹿商工会議所の部会加入企業を中心に支援依頼を促すべく「動く」支援室の名の如く　こちらから出向いて（営業活動）を行っています。まず企業の皆様に支援室を認知して頂くのが肝要で有ると考えますがパンフレット（裏面抜粋参照）の作成や、ポスターも広報活動に効果が期待できるところです。下段事務局長の記事の表にありますように第一・四半期の結果を見ますと鈴鹿の製造業の特色が解りますが自動車関連中小企業を軸としてロス取りを含むコストダウンのテーマが多く支援企業も6月実績で三十一社となっています。今後はさらに依頼企業も増加しアドバイザーの皆様の出番も増えると思いますので宜しくお願いします。（石田）

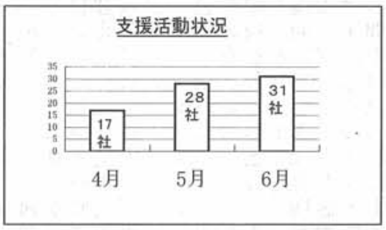
支援室
トレードマーク
募集中
9月下旬
選考予定

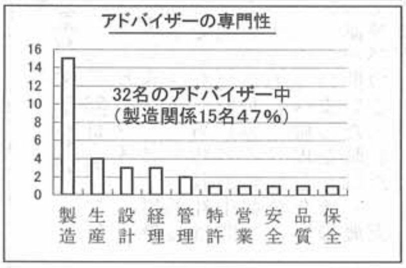
発行責任者
鈴鹿市ものづくり
動く支援室
代表　大原　勝

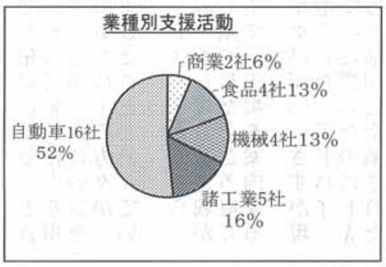
「鈴鹿市ものづくり動く支援室」
鈴鹿市飯野寺家町816番地
鈴鹿商工会議所3階
TEL059-384-0880
fax059-384-0868
E-mail
shien@mecha.ne.jp

関連機関
鈴鹿市産業振興部
産業政策課









ものづくり動く 支援室活動報告（第一四半期）

事務局　三枝　末男

四月のキックオフを契機とし、第一四半期活動の目標である10社をクリヤー出来たことは、企業はもとより鈴鹿市、鈴鹿商工会議所、支援室の良き連携のお陰と皆様に感謝しております。

具体的な活動の中では、良い例としては支援室をきっかけとし、企業全体の体質改革に結びついたこと。また、オンリーワン技術を求め特許の申請に結びついたことです。しかし課題としては、支援室の認知度はまだ低い為、第二四半期に向けた新規支援企業の開拓が急がれる。また活動の中においては、テーマ設定整合が不十分で、納得いく活動が出来なかったこと。支援室内としては、32名のアドバイザーの出番率37%と低かった。最後に課題解決に当って、広報活動はもとより支援室のお客様である企業のニーズを捉え、日常の地道な活動の積み重ねで信頼を得ることが大切であると考えます。皆様のご協力と助言をお願いします。

TOPICS
狭山市議団支援室視察

去る六月三十日、埼玉県狭山市の市会議員四名が、当支援室視察の為来鈴されました。狭山市では、OB人材を活用した既存企業支援と言う取り組みは行ってはいないと言う事で、当支援室について強い関心を示されました。当支援室の概要を映像等を交えて説明したところ、議員からは、大企業OBが中小企業を訪問することの課題やアドバイザーの派遣方法について質問され、当方と熱心な意見交換を行いました。（山田）

事務所移転計画

鈴鹿商工会議所三階にあります「鈴鹿市ものづくり動く支援室」の事務所は、旧市役所庁舎「別館第三」に年内の移転を計画しています。気軽に来室して頂けるような事務所作りを目指し、面積も現在の5倍とし、相談コーナーや交流スペース、大会議室を設置いたします。ご期待ください。（伊藤）

adviser紹介

宮本佳宥（みやもとよしひろ）
経歴～自動車製造業
専門性～表面処理・物流

私は四月のキックオフ時より、SA（スペシャル・アドバイザー）として登録し、又人材紹介窓口として日々活動しています。誰でもが定年を迎えたとき、「仕事せず、命令されず、気楽にすごしたい」と言う願望があるが、私の経験からせいぜい半年が限界です。ボケ防止にも何か自分で考える行動を起こすことが大事だと痛感しているところです。

わが友よ、自分の技をボランティア活動を通じて頭の活性化を計り、第二の人生を楽しく送ろうではないか・・・・。（いざ　出陣だ！前進あるのみ）

コラム 三現主義

「鈴鹿市ものづくり動く支援室」の設立から関与して早一年が経過した。景気回復傾向のせいか私ども「支援室」への依頼より自力で頑張ろうとする姿勢が、各企業共強く見受けられる。それはそれで結構なことであるが今まで訪問をさせて頂いた企業を見る限り経営の「リスク対応」の努力が後回しに成っている様に思われる。其の一つに外国人の方々が企業の重要な戦力に成っていますが問題はコミニケーションのとり方に苦慮していることである。鈴鹿市在住の外国人の方は一万人弱ほどに達しており共存した地域造りが必須となっている。官も共存への取り組みを活発化させているが支援室としても企業活動を通して、最低のコミニケーションである言葉の壁を取り払う努力を促す諸施策を各企業にお話し続けて行きたい。産、学、官が外国人の方達と共存できる鈴鹿市造りに努力すれば今後の高齢者社会への大きな助けに成るものと信じている。（徳澄）

「俊敏な動き」を武器にお手伝いをします

難問を解決して仕組に反映
行政、関係機関とのよい風通し＆連携プレー

多彩なメンバー構成
産(企業、商工会議所)
官(鈴鹿市)
学(鈴鹿高専等)

ここが違う鈴鹿市の「ものづくり動く支援室」

電話一本でお伺いします
すぐやる支援室
困りごとは早期解決

現場で勝負
依頼企業TOP
依頼企業社員
＆支援メンバーが
合同で取り組みます

コスト"ゼロ"(無料)でお手伝い
原則1テーマ 7回/3ケ月

中小企業支援
中小製造企業の「困りごと」を支援します
企業の困りごと
鈴鹿市「ものづくり動く支援室」
鈴鹿市産業振興部/鈴鹿商工会議所

経験豊かな企業OBが　あなたの会社の現場の力を引き出します

お申込みと相談会 → 会社訪問企業診断 → 実行計画立案合意 → 支援実務展開 → 支援完了効果確認 → 企業の困りごと解決

実務行動まで2週間

1回4時間原則7回3ヶ月以内

鈴鹿市ものづくり動く支援室の　相談/申込について
受付窓口　鈴鹿商工会議所3階
(月～金曜日　9:00～17:00)
電話　059－384－0880
FAX　059－384－0868

体験談　支援を受けて
あまり身近すぎて気が付かない身の回りのこと

(有)フューチャーアドバンス
本部長　加藤　雅敏

支援室との接点は商工会議所の明石部長からの紹介によるものでした。当時我社は大手電装会社の外注三社が合併して誕生間もない会社でした。生産効率も悪く利益も儘ならない悪戦苦闘の状態でした。しかし夢だけは町工場から会社組織へ脱皮したいと悩みつつも様子を伺っていました。そのような状態でしたから話を聞いた時は「渡りに船」で二つ返事で飛びつきました。支援室の話の中で展開方針が「現場のことなら何でも相談に乗る」と言うではありませんか。そこで事前に16項目余りの相談事を整理し最初の会合の日を迎えました。支援室のメンバーの方々が入ってこられ大変緊張したことを憶えています。

フューチャーアドバンス(FA)から色々な項目について説明をし親会社と我が社の直近のテーマ等も話をしたところ直ぐ現場を見たいと言う事で工場を案内することとなりました。巡回途中色々な質問が飛び交い　さすが現場のプロと言った感触でした。アドバイザーからのコメントで心に響いたのはFAの問題は経営者にあると最初に指摘されたことです。

支援テーマは主力製品の「加工から出荷までの生産レイアウトの再配置とロス取り」と言うFAの体質改革を伴うテーマに落ち着きました。1週間後より支援活動が開始されました。まず現場で不具合事象を見つける作業が始まりました。タカを括っていた私達はマサカこんな大変な思いをするとは思っても見ませんでした。現場チェックをを終えて事務所に帰ると直ぐにまた現場に戻され現場で何を見ているのか、不具合はたったそれだけか、量はどれだけあるのか、誰が困っているのかだから問題は何か、次から次に弱点を指摘され途方にくれる始末となりました。日頃善しとしていました。生産活動をしていましたが　これ程にも問題が山積みされているとは思っても見ない驚きでした。

中間報告会で改善例を説明される加藤部長

最初に問題解決をするプロセスを実践で体得することから始まりました。現場にどれだけの「ムリ、ムダ、ムラ」があるのか自ら測定することでした。どう見ても20%のロスを抱えながら非効率的な仕事をしていることが判ってきました。問題の大きさを特定すると、何故そうなったのか、原因追及です。そして課題は何か、今後如何にすれば良いのか、施策、対策までを具体的に次々にこなして行きます。これらの作業は後の体質改革プランを立てるのに役に立つとは思っても見ませんでした。結果として大変な思いで身に付けられたことは

1、目標を持ってことに当ること
2、全員が目標に向かって動くには動機付けが大変重要であること
3、組織としての連携の取り方
4、経営資源を有効的に使うこと

特に私たちにはスピードが有りませんでした。また活動を通して気づいたことは全ての問題は　自責で考えなければ何も解決しないと言う事でした。次に「MTM手法による動作分析」をロス取りの武器として指導を受けることになりました。FAにマッチングしたマニュアルを作成してもらい　事例工程をサンプルに手法を学びました。これは人集約型の製造を行う私達にはまったく便利で効果のわかりやすい手法でした。ところが始まるや否やアドバイザーから現場に作業標準が無い、標準の無いところでバラツキは発見できない。一刀両断でした。要はものづくりの体をなしていないと基本中の基本を指摘され「あまり身近すぎて　気が付かない身の回りこと」のタイトルの言葉を思い知らされました。こうして支援活動を受けながら体質改革を進めると言う超特急の難題にチャレンジをする事を決断し企画書作成も支援を得、組織を動かす計画の大切さ、仕事の大きさを改めて知る事と成りました。道半ばといえ既に目標の16%の改善が確認でき　何かホットした様な　支援試行メーカーとしての責任を果たせた様な複雑な気持ちになっています。

ここまで来たからには更に進化させ何とし鈴鹿のモデル工場に推薦されるよう努力したいと思っています。これからも引き続き工場がどう変わるか見届けて下さい。

編集後記

支援企業も拡大しアドバイザーも40名余となり情報の共有化を計る為に　瓦版「広報ものづくり」を発行する事となりました。素人編集では有りますが、発信側、受け取り側が　原稿を介して気楽に意想の疎通をして頂き　ものづくり動く支援室の活動が円滑にはかどる一助になればと願っています。創刊号で至らない点が多々あると思いますが御忌憚の無いご意見、ご指導をよろしくお願いします。次号は十月を予定しています投稿のほど宜しくお願いします。(門平)